柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

１９９２年度

１９９３年３月

柏原市教育委員会

はしがき

本年度は史跡高井田横穴公園のオープン、柏原市立歴史資料館の開館という２つの大きな事業を無事に終えることができました。これも市民のみなさんの御理解と御協力の賜物であると感謝しております。今後は両施設を核とし、文化財の普及と啓蒙に力を注いでいきたいと考えております。

その一方では、本年度も土木工事に伴う数多くの緊急発掘調査を実施してまいりました。本市では迅速な対応と適切な調査を心掛けておりますが、文化財行政として取り組まなければならない問題は山積みしております。

本書では、本年度に国庫補助事業として実施した調査の中から、主要なものについての概要を紹介しております。これら小規模な調査も、市内遺跡群の状況把握において重要なものであり、今後の本市文化財行政に指針を与える資料となることを御理解いただきたいと思います。これらの調査成果を基に、より充実した文化財行政が実現できるように努力していきたいと考えております。

みなさんのより一層の御理解と御協力を賜りたく、よろしくお願いいたします。

平成５年３月

柏原市教育委員会

教育長　庖刀和秀

例　　言

1．本書は柏原市教育委員会が平成４年度に国庫補助事業（総額3,000,000円、国補助率50％、府補助率25％、市負担率25％）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。

2．調査は柏原市教育委員会社会教育課　北野　重、安村俊史、石田成年を担当者とし、平成４年４月１日に着手し、平成５年３月31日に終了した。

3．本書には、平成４年１月１日から同年12月31日までに着手した土木工事に伴う事前発掘調査のうち７件の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なお、この期間内に文化財保護法第57条の２および３に基づく届出・通知がなされたものは200件、その中で発掘調査を実施したものは69件、国庫補助事業として調査を実施したものは50件である。

4．本書の執筆は各担当者および津田美智子が、編集は安村が担当した。

5．本書図中の方位は磁北、標高はＴ．Ｐ．で表示した。

6．調査・整理の参加者は下記のとおりである。

藤田昌宏　空山　茂　竹下　賢　山田寛顕　桑野一幸　寺川　款　谷口京子
生駒美洋子　奥野　清　谷口鉄治　分才隆司　秋田大介　小野洋行　大学康宏
西島伸彦　椋本徹夫　山口　剛　酒井英利香　阪口文子　尾野知永子　及一敏恵
有江マスミ

目　　次

はしがき
例　　言
目　　次
1992年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧
第１章　大県南遺跡 …… 1
第２章　太平寺遺跡 …… 4
第３章　安堂廃寺 …… 6
第４章　片山廃寺 …… 14
第５章　田辺遺跡 …… 22
図　　版

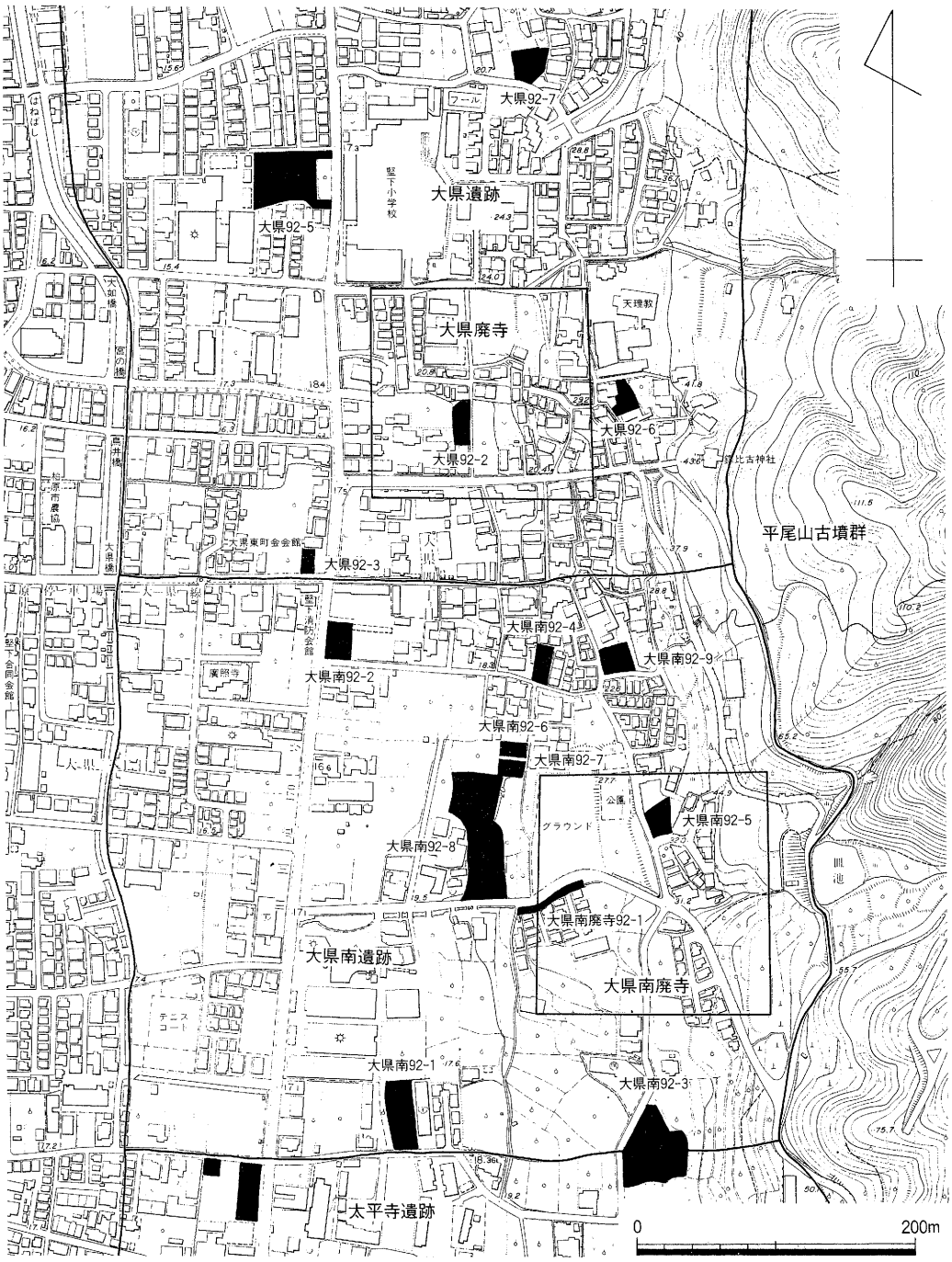
1992年度　柏原市内遺跡群発掘調査一覧

遺　跡　名	所　在　地	面積㎡	申　請　者	用　途	担当	調査期日	備　考
船橋92-1	大正3丁目地内他	50	柏原市下水道部	下水道	石田	1.7～1.17	6×6.8×3.8mを調査。 遺物・遺構なし。
船橋92-3	大正2丁目338-13、337-4	265.55	東川正寿	旅館建設	石田	5.1	2×1×1.6mを調査。 遺物・遺構なし。
船橋92-4	大正3丁目350-13、351-11	195.82	笹野貞夫	学生寮建設	石田	9.24	2×1×2mを調査。 遺物・遺構なし。
船橋92-6	古町地先	2800	大和川工事事務所	浄化施設	石田	12.4	4ケ所、計49㎡を調査。 遺物・遺構なし。
大県郡条理遺構92-1	法善寺2丁目164-1他	1821.92	松本幸男	共同住宅建設	石田	12.16	3×3×2.5mを2ケ所調査。 遺物・遺構なし。
平野92-1	平野2丁目471-1（一部）	494.44	安田　昇	倉庫建設	石田	6.4	2×1×1mを調査。 遺物・遺構なし。
平野92-2	法善寺4丁目247-7	61.09	高萩　茂	個人住宅建設	北野	8.24	1.5×2×1.8mを調査。 遺物・遺構なし。
大県92-1	平野1丁目110-3	230.66	曽谷繁治	個人住宅建設	安村	1.31	1×3×1.7mを調査。 遺物・遺構なし。
大県92-2	大県4丁目85-1、-2、84-3	350.23	植田　勲	長屋建設	石田	5.19	2×1×1.2mを調査。 古墳～奈良時代の遺物包含層。
大県92-3	大県3丁目159-16	144.18	藤江成光	個人住宅建設	安村	6.8	1×1.5×1.7mを調査。 7～8世紀の遺物が少量出土。
大県92-4	平野1丁目107-1の一部	129.43	廣野全保	個人住宅建設	安村	9.9	1×2.5×1.1mを調査。 遺物・遺構なし。
大県92-5	平野1丁目22-3、23-1、26、27 21-4、-7、-8、-9	1841	日本ポットグレープ㈱ ㈹本田　勝	共同住宅建設	石田	11.10	2×2×3.5mを調査。 地表下2.5mで古墳～奈良時代の遺物包含層。
大県92-6	大県4丁目25の一部	235.22	重富純和	個人住宅建設	安村	11.12	2×2×0.4mを調査。 近世の井戸を検出。
大県92-7	平野2丁目167-6、168-1	436.89	山路純弘	個人住宅建設	安村	11.26	1.5×1.5×0.8mを調査。 7～8世紀の遺物が少量出土。
大県92-8	平野1丁目75-4	94.70	服部　弘	個人住宅建設	安村	12.14	1.5×3×1.8mを調査。 遺物・遺構なし。
大県南92-1	太平寺2丁目552-1、553-2	807.13	西尾　茂	倉庫建設	北野	4.2	1×2×1.7mを調査。 遺物・遺構なし。
大県南92-2	大県4丁目249-7	435.61	三幸㈱ ㈹北口幸作	給油所建設	石田	4.28	2×1×2.2mを調査。 地表下1.9mで奈良時代の遺物包含層。
大県南92-3	太平寺2丁目577-1他	1856.06	高井繁松	共同住宅建設	北野	6.22～7.10	6.3試掘。13×33mを調査。 古墳時代～奈良時代の遺物・遺構出土。
大県南92-4	大県4丁目236-3	204.03	三田正直	個人住宅建設	安村	7.6	1.5×2×1.4mを調査。 7～8世紀の遺物が少量出土。
大県南92-5	大県4丁目487-1	316.43	古村正義	共同住宅建設	石田	9.1～9.4	8.27試掘。12×15mを調査。 飛鳥～平安時代の柱穴・土坑を検出。
大県南92-6	大県4丁目379、378-2の各一部	182.90	杉本重之	貸家建設	石田	10.22	本書掲載
大県南92-7	大県4丁目379、378-2の各一部	187.34	杉本重之	貸家建設	石田	10.22	本書掲載
大県南92-8	大県4丁目369他	2360.19	田仲豊作	共同住宅建設	石田		次年に調査延期。
大県南92-9	大県4丁目223、226 225-1、-2、-3	500	山下修平	個人住宅建設に伴う擁壁工事	安村	11.24	1.7×1.5×0.8mを調査。 近世の遺物が少量出土。
太平寺92-1	太平寺2丁目515、517	555.21	古村正義	分譲住宅造成	安村	4.2～4.3	本書掲載。
太平寺92-2	太平寺1丁目59-1	143	谷口賢二	個人住宅建設	安村	4.27	1×2×1.6mを調査。 古墳～飛鳥時代の遺物が少量出土。
太平寺92-3	太平寺1丁目60-1	567.97	中野富治	共同住宅建設	石田	5.21	3×3×3.8mを調査。 地表下3.5m以下に8世紀の遺物包含層。
太平寺92-4	安堂町985-1	458	柏原市長　山西敏一	駐車場造成	北野	12.15～12.25	2×6mを3ケ所調査。 古墳～奈良時代の遺物包含層。
安堂92-1	安堂町919-1の一部	518.58	木南雪江	共同住宅建設	石田	1.16	2.5×1.6×2.2mを調査。 縄文土器片が出土。
安堂92-3	安堂町914、974-2	589.99	山下真弓	学生寮建設	石田	8.5	2×2×1.6mを2ケ所調査。 地表下0.3～0.7mで奈良時代の遺物包含層。
安堂92-4	安堂町746、747	1273.15	小西豊次	共同住宅建設	石田	9.2	3ケ所、計12㎡を調査。 遺物・遺構なし。
安堂92-5	安堂町592	1727.604	㈱大日寺 ㈹藤井大吾	庫裡建設	石田	12.14	1.5×2.5mを調査。 遺物・遺構なし。
高井田92-1	高井田450、451、452、453、454-1	1510.62	山下建設㈱ ㈹山下武次	共同住宅建設	石田	12.25	2.5×2.5×3mを調査。 遺物・遺構なし。
大県南廃寺92-1	大県4丁目	672	大阪府八尾土木事務所 所長　松村　治	砂防流路工事	安村	5.27～6.17	3ケ所で試掘後、立会。 遺物・遺構なし。

遺　跡　名	所　在　地	面積㎡	申　請　者	用　途	担当	調査期日	備　考
太平寺廃寺92-1	太平寺2丁目367-3、368-1 -2	1755.47	中辻信太郎	共同住宅建設	石田	12.3	2.5×2.5mを2ケ所調査。 遺物・遺構なし。
安堂廃寺92-1	安堂町611-3	178.15	田中睦信・田中文子	個人住宅建設	安村	2.21	本書掲載
安堂廃寺92-2	安堂町677	97.907	福呂幸夫	個人住宅建設	安村	10.5	本書掲載
安堂廃寺92-3	安堂町668-9の一部	83.52	藤枝陽治	個人住宅建設	安村	11.16～11.17	本書掲載
鳥取千軒92-1	青谷381-2	428.29	増田富士男	個人住宅建設	安村	2.24～2.25	1.5×2×1mを調査。 遺物・遺構なし。
平尾山古墳群92-1	平野875-2、-7、-14	2550	南口一郎	農地造成	北野	3.2～3.24	5×10mを2ケ所調査。 横穴式石室を主体とする古墳2基を調査。
平尾山古墳群92-2	青谷2072	6830	柏原市産業課	ため池改修	北野	3.6～3.31	4×5mを調査。 中世の遺物が多量に出土。
平尾山古墳群92-3	青谷2257	750	横尾卯太郎	農地造成	安村	3.9～3.20	6ケ所計30㎡を調査。 横穴式石室1基と古墳2基の範囲確認。
平尾山古墳群92-4	安堂1060-1　他5筆 太平寺660他4筆	8340.47	㈱普門山　妙法寺 住職　西田光妙	寺院建設	石田	6.9～9.7	5.26・27試掘。計150㎡を調査。 横穴式石室を主体とする古墳を調査。
平尾山古墳群92-5	青谷1009-1	264.20	大阪府警察本部総務部 施設課長　玉田　収	駐在所建設	安村	8.11	2×2×0.3mを調査。 遺物・遺構なし。
平尾山古墳群92-6	青谷2217-2	556.76	安田義治	個人住宅建設	安村	10.21	1.2×2.2×1mを調査。 土師器片が出土。
玉手山92-1	旭ケ丘2丁目376-1他	32700	イケソー開発㈱ ㈹池田宗文	造成	石田	1.20～2.18	11ケ所、計280㎡を調査。 埴輪が出土。
玉手山92-2	旭ケ丘1丁目426-2 428-8、-9、-10	1307.66	㈱普明会教団 鹿島孝夫	教会建設	石田	3.19	0.5×1.5mを2ケ所調査。 遺物・遺構なし。
玉手山92-3	玉手町131-2、130-2の一部	212.74	土井　勉	個人住宅建設	石田	3.23～3.24	1.5×3×0.6mを調査。 遺物・遺構なし。
玉手山92-4	円明町606-1	914.296	寺田悦子	倉庫建設	石田	4.14	2×1.25mを2ケ所調査。 遺物・遺構なし。
玉手山92-5	玉手町115-101の一部	169.10	㈱山王ハウジング ㈹山田龍男	個人住宅建設	安村	6.12	1×2×2mを調査。 遺物・遺構なし。
玉手山92-6	玉手町115-101の一部	114.21	㈱山王ハウジング ㈹山田龍男	個人住宅建設	安村	6.12	1×2×2.1mを調査。 遺物・遺構なし。
玉手山92-7	旭ケ丘1丁目430-2、431-1、-5 432-1の各一部	262.05	形部和也	個人住宅建設	安村	6.18	0.5×2mを調査。 遺物・遺構なし。
玉手山92-8	旭ケ丘1丁目430-2、431-1、-5 432-1の各一部	286.87	島田浩行	個人住宅建設	安村	6.18	0.5×3mを調査。 遺物・遺構なし。
玉手山92-9	旭ケ丘2丁目358-15	98.35	平山マリ子	個人住宅建設	安村	6.22	1.4×2.4×0.8mを調査。 遺物・遺構なし。
玉手山92-10	円明町475-1	300.54	辻内　清	事務所建設	北野	12.28	2×3×1.5mを調査。 遺物・遺構なし。
片山廃寺92-1	片山町176-1、-2	419.05	廣河勝孝・廣河智子	個人住宅建設	安村	1.7～1.14	本書掲載
田辺92-1	国分本町6丁目697-4、698-1	990.012	桃井淳子	倉庫建設	安村	2.14	5.4×24mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺92-2	田辺2丁目2093-1、2023-14	429.70	石田　博	個人住宅建設	石田	2.24～2.25	2×2×0.5mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺92-3	田辺2丁目2060-7、-9	110.96	中小路博司	個人住宅建設	石田	2.26	2×2×0.5mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺92-4	国分本町7丁目1941-1、1942-2	257.23	前田繁太郎	長屋建設	安村	7.7	0.5×1×0.2mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺92-5	田辺1丁目1022	374.97	浅田耕治	個人住宅建設	安村	8.6	2×2×1mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺92-6	田辺1丁目996-9他1筆	160.45	岩根利久	擁壁工事	安村	8.7	2×2.5mを調査。 中世の土坑を検出、遺物が出土。
田辺92-7	国分本町6丁目678-1	171.03	柴田住建 ㈹柴田義信・栄子	長屋建設	安村	8.31	本書掲載
田辺92-8	田辺2丁目2064-1の一部	390.26	古井ヨシエ	共同住宅建設	安村	9.9	2.4×2.7×0.3mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺92-9	田辺2丁目2163-1の一部	162.50	矢野明宣	個人住宅建設	安村	9.21	2×2m、1×1mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺92-10	田辺2丁目1231-30 1254-6の各一部	85.12	辰己孝道	個人住宅建設	安村	9.22	2×2m、1×2mを調査。 少量の土師器・サヌカイトが出土。
田辺92-11	田辺1丁目378-2、-3	253.28	松井　繁	個人住宅建設	安村	12.10	1×2×0.2mを調査。 遺物・遺構なし。
松岳山古墳群92-1	国分市場1丁目1617-2の一部	265.50	辻　成介	倉庫建設	安村	3.2	1×1.5×0.7mを調査。 遺物・遺構なし。
松岳山古墳群92-2	国分市場1丁目3108-13	502.36	八幸産業㈱ ㈹東部正巳	分譲住宅建設	石田	10.3	2×1×1mを調査。 遺物・遺構なし。

（但し1992年1月1日から12月31日に着手したもの）

第１章　大県南遺跡



図－１　調査対象地位置図

92－6・92－7次調査

・調査対象地　柏原市大県4－379,378－2

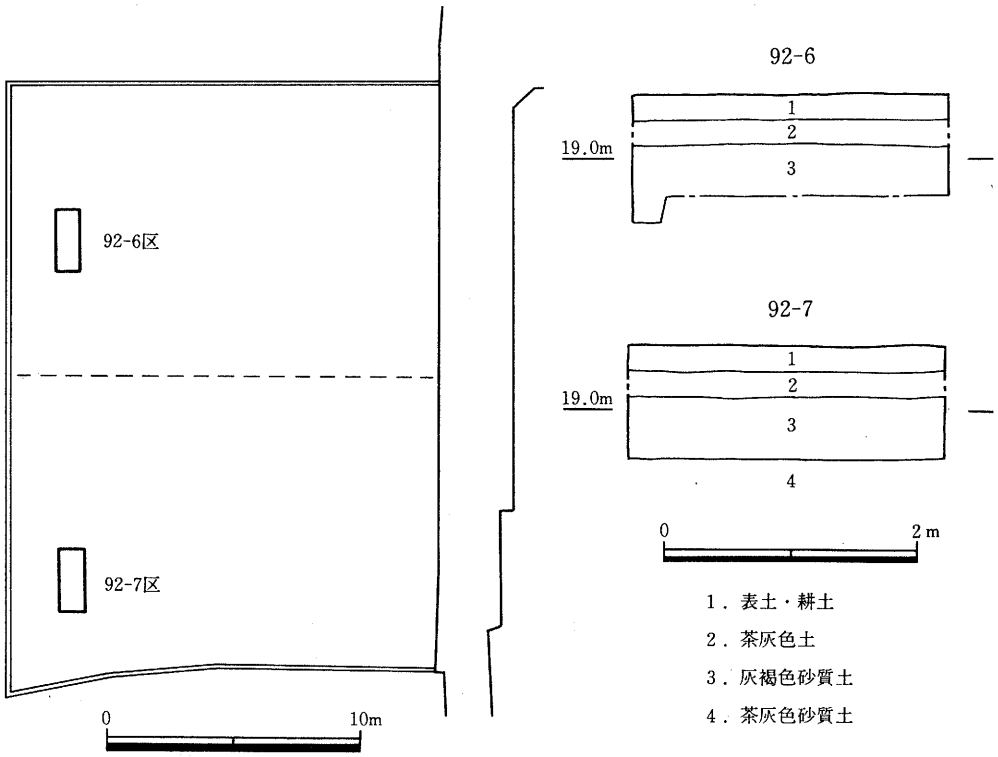
・調査期間　1992年10月22日

・調査面積　（92－6区）2.5㎡／182.90㎡、（92－7区）2.5㎡／187.34㎡

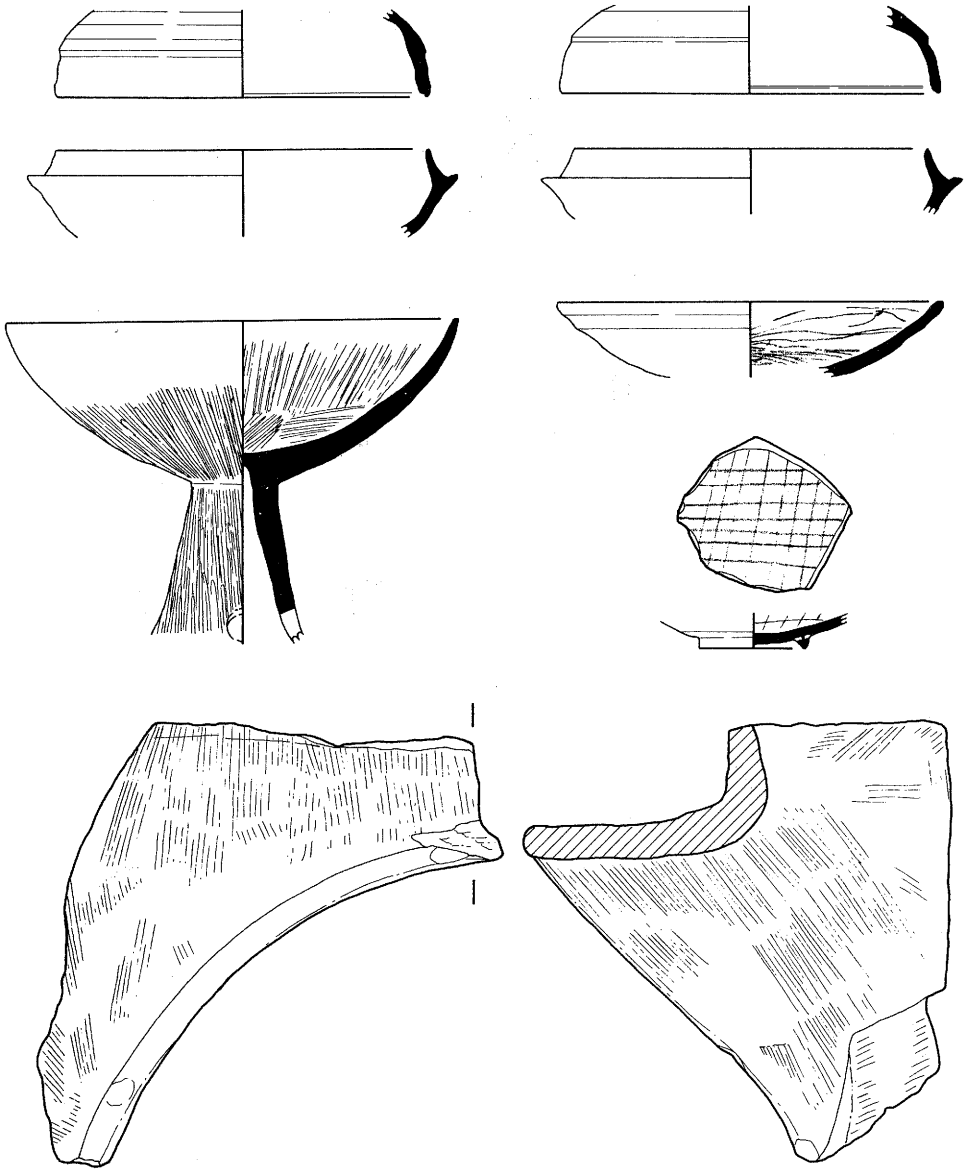
・調査担当者　石田成年

当該調査は同じ地番、敷地内で実施したものであるが、文化財保護法第57条の2の届出が分けて提出されたため調査次数も各々に附すこととした。現状は葡萄畑で、標高は19.4～20.0m。各々の調査対象地の西辺に長さ2.5m、幅1mの調査区を設定し、すべて人力により掘削した。建造物の基礎深度が浅いことから、現地表下90～100㎝までの掘削とした。

表土、耕土下の茶灰色土層、灰褐色砂質土層は近現代から弥生時代までの遺物が混在する遺物包含層である。92－7次調査区においては灰褐色砂質土層下に茶灰色砂質土層を検出した。各層上面において精査したが、遺構は認められなかった。遺物は両調査区合わせてコンテナ1箱分、出土した。図示できない細片が多い。各時代の通有の土器類の他に、当該遺跡では顕著に認められる鞴羽口、鉄滓（計247.1g）、獣骨がある。

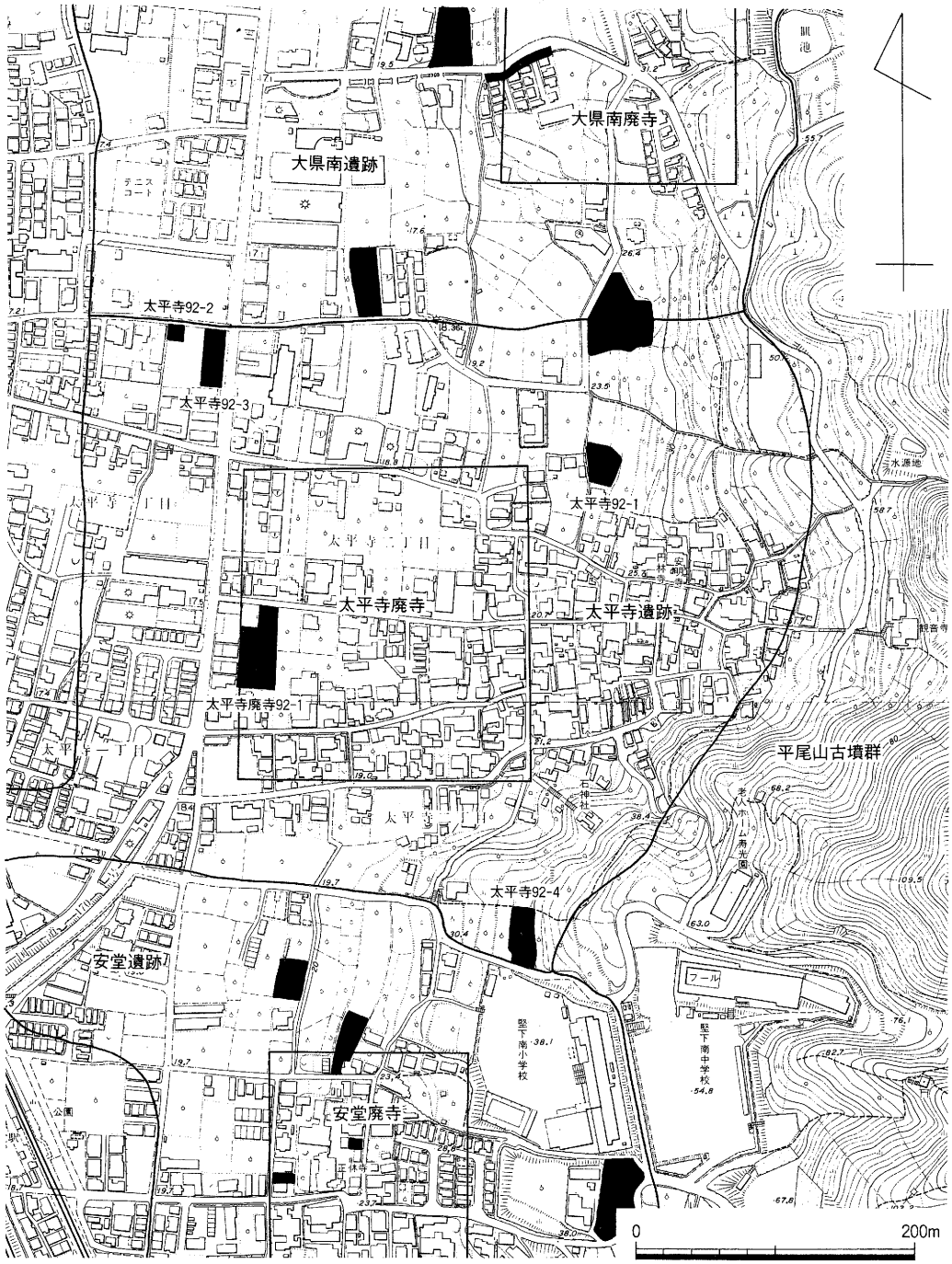


図－2　調査区位置図・東壁断面図



図－3　包含層出土遺物（S＝1／3）

第２章　太平寺遺跡



図－４　調査対象地位置図

92－1次調査

・調査対象地　　柏原市太平寺2丁目515,517

・調査期間　　1992年4月2・3日

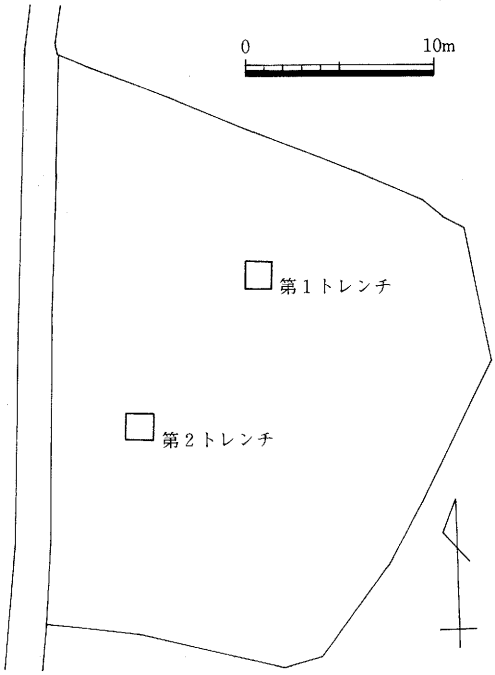
・調査面積　　4.5㎡／555.21㎡

・調査担当者　　安村俊史

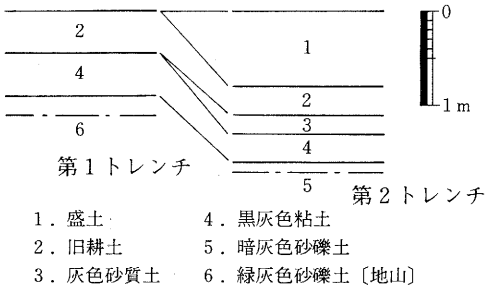
調査対象地に、1.5m四方のトレンチを2箇所に設定して調査を実施した。第1トレンチでは、地表下45㎝で黒灰色粘土の遺物包含層に至り、地表下90㎝で地山と考えられる緑灰色砂礫土に至る。旧耕土から須恵器杯身(3)、黒灰色粘土から須恵器杯蓋(1)、土師器皿(4)などが出土している。

第2トレンチでは、地表下110㎝以下で遺物包含層がみられ、170㎝まで堀り下げたが、更に遺物包含層が続いている。盛土から須恵器杯身(2)、黒灰色粘土から土師器小形高杯(5)などが出土している。遺物包含層は3層に分けられるが、時期差は明確にできない。

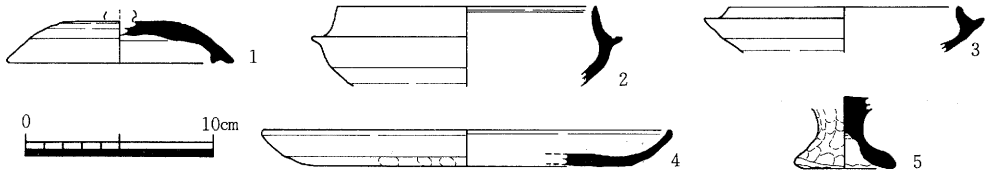
須恵器杯蓋(1)は、内面にかえりを有する。つまみは欠損している。須恵器杯身(2・3)は、2は高い立ち上がりを有し、受部はほぼ水平にのびる。3は内傾する短い立ち上がりを有する。土師器皿(4)は、口縁端部を内傾させ、底部付近に指頭調整を施す。土師器の小形高杯(5)は、外面を指頭調整、内面にナデ調整を施す。杯部は欠損する。



図－5　調査区位置図

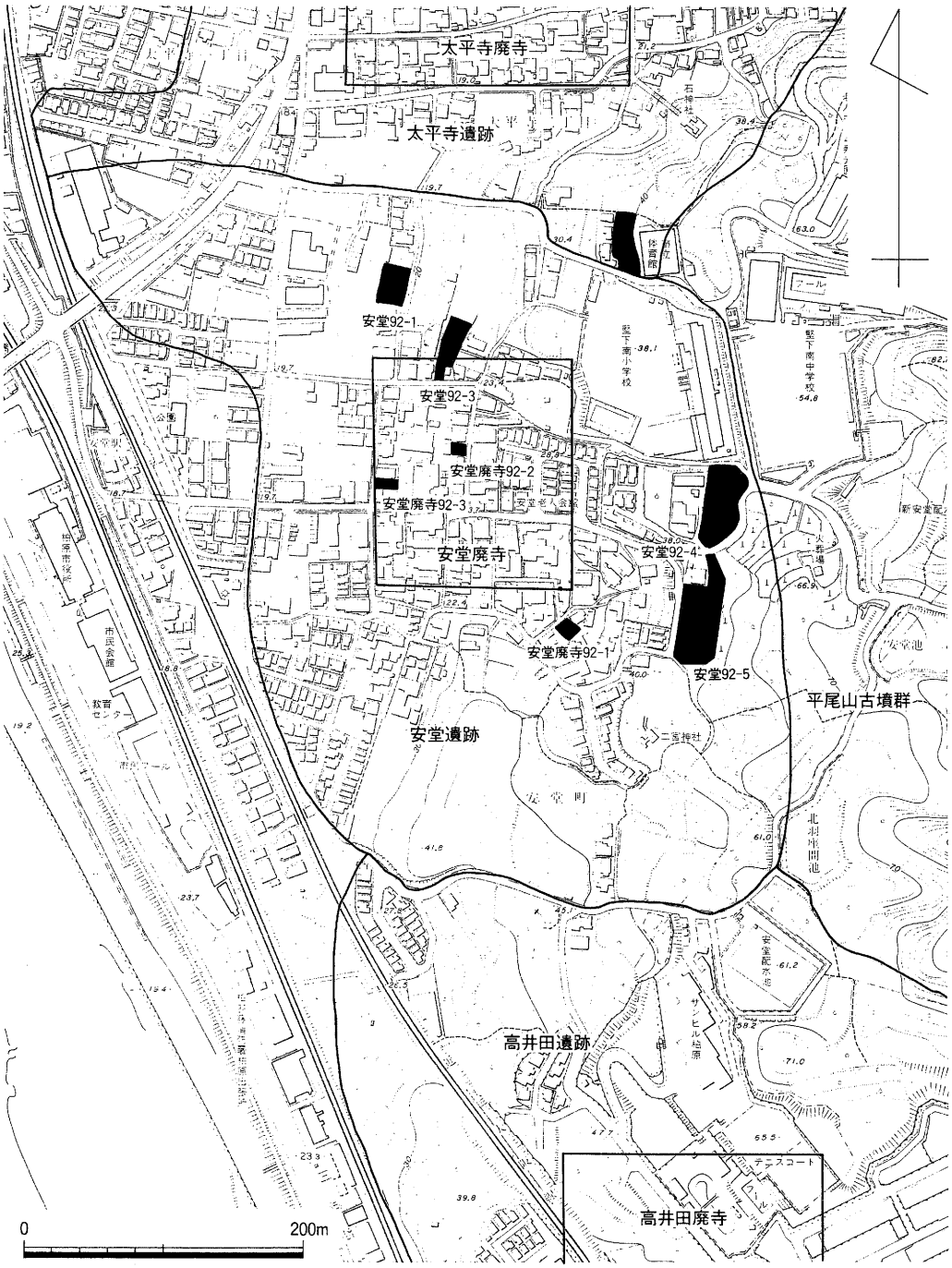


図－6　土層摸式図



図－7　出土遺物

第３章　安堂廃寺



図－８　調査対象地位置図

92－1次調査

・調査対象地　　柏原市安堂町611－3

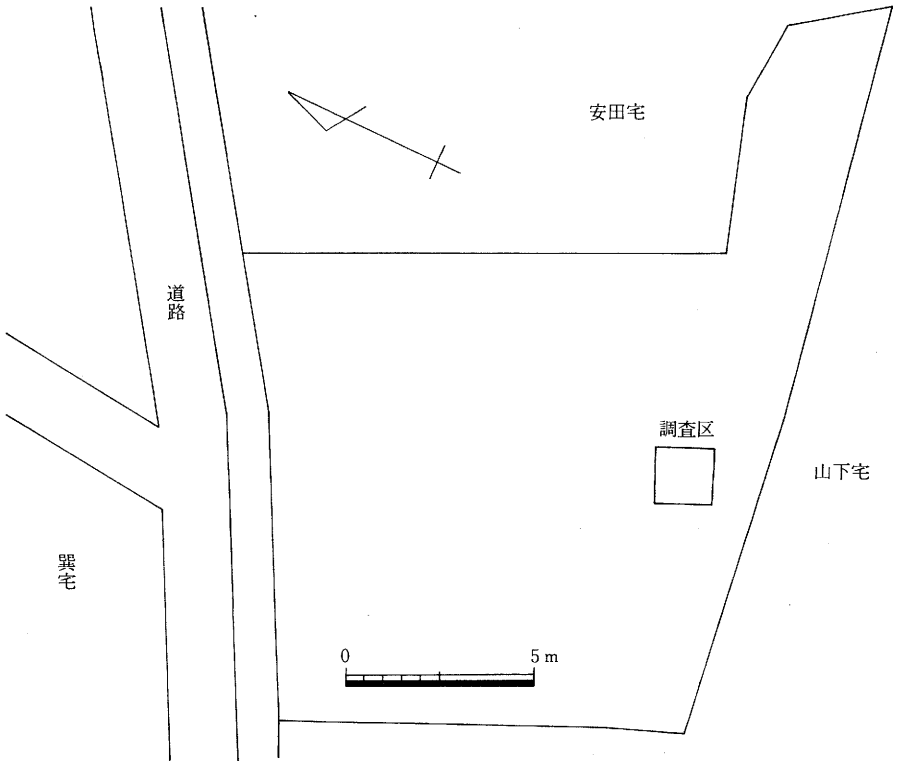
・調査期間　　1992年2月21日

・調査面積　　2.25㎡／178.15㎡

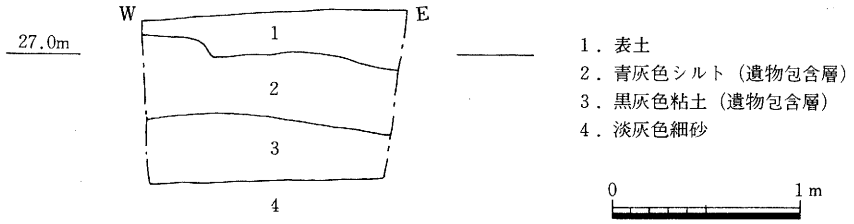
・調査担当者　　安村俊史

調査対象地は安堂廃寺（家原寺）の推定寺域の南東部に位置する。調査は、対象地の南端中央に1.5m四方のトレンチを設定して実施した。

厚さ10～30㎝の表土を除くと、30～40㎝の厚さの青灰色シルトがみられる。青灰色シルトからは須恵器・土師器・瓦が出土しており、8世紀代の遺物包含層と考えられる。その下層には厚さ20～35㎝の黒灰色粘土がみられ、やはり須恵器・土師器・瓦が出土しているが6～8世紀の遺物を含んでおり、青灰色シルトよりも古い様相を示している。更にその下層、地表下90㎝、T．P．26.3mに淡灰色細砂がみられる。淡灰色細砂を一部掘り下げたが、遺物は含んでいないようである。シルト・粘土・細砂と続く層序からは、谷、あるいは湿地状の地形であったと想定されるものである。



図－9　調査区位置図



図－10　北壁土層断面図

図化した遺物は、須恵器・土師器・瓦であり、1～3は黒灰色粘土から、4は青灰色シルトから出土している。

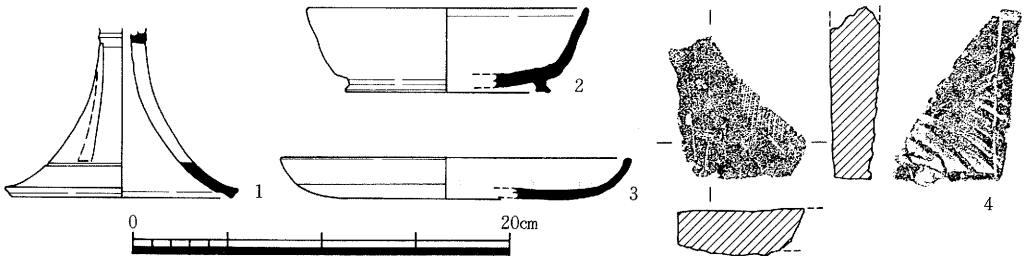
須恵器の高杯(1)は、長脚二段三方透しの脚部。脚部中央に2条、下方に1条の凹線がめぐる。

須恵器の杯身(2)は、高台を有する。口縁は斜め上方へまっすぐにのびる。口径14.7㎝、器高4.5㎝、底径10.7㎝。

土師器の皿(3)は、ほぼ平らな底部より、ゆるやかに湾曲し、口縁端部は丸くおさめる。口径18.4㎝。

平瓦(4)は、凸面に無軸綾杉の叩きを有する。凹面は布目痕が残り、周囲をヘラケズリしている。端面・側縁はヘラケズリを施す。1984年度安堂廃寺の調査によって、平瓦Ⅲ′類としたものに相当する。（柏原市教育委員会『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報・1984年度』1985）

僅かな調査面積ではあるが、6～8世紀の遺物包含層が確認できたことは大きな成果であった。周辺に当該時期の集落が存在するものと考えられる。また、少量ではあるが、安堂廃寺に伴うと考えられる瓦が出土したことから、調査地周辺まで安堂廃寺の寺域に含まれていた可能性を示している。主要伽藍の配置さえ不明な現状ではあるが、このうよな地道な調査によっていずれ明らかとなるであろう。なお、建物基礎深度は浅く、遺物包含層の一部に影響を与えるのみと考えられるため、工事に際して立ち会うこととし、調査範囲の拡張は行わなかった。立ち会いの結果、遺物包含層は北側へ下がっているようであり、基礎の大部分は表土内におさまった。



図－11　出土遺物

92－2次調査

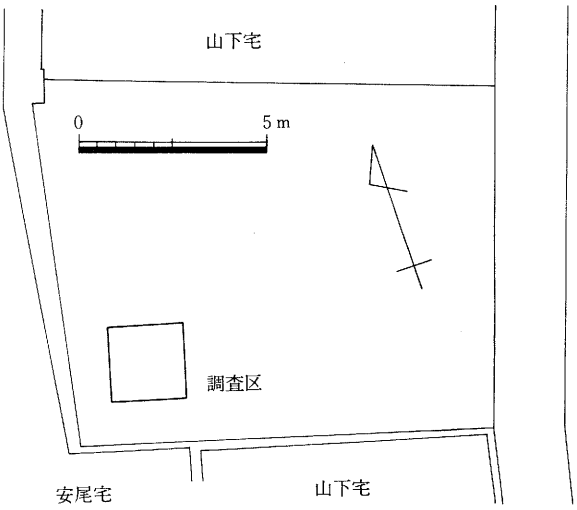
・調査対象地　　柏原市安堂町677

・調査期間　　1992年10月5日

・調査面積　　4㎡／97.91㎡

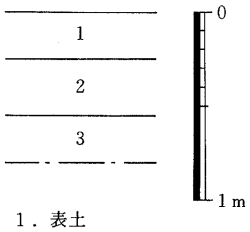
・調査担当者　　安村俊史

調査対象地の南西部に2m四方のトレンチを設定し、調査を実施した。地表下25㎝までは表土、その下に30㎝の厚さの淡褐色砂質土、その下に暗青灰色シルトがみられ、地表下80㎝以下に続いている。淡褐色砂質土には少量の近世の陶磁器、瓦などを含んでおり、暗青灰色シルトには多量の近世の陶磁器、瓦、木製品などを含んでいる。調査対象地は、安堂廃寺推定寺域のほぼ中央に位置するが、埋土から判断するとこの周辺は池状の地形を呈していたものと考えられる。約50m南東での1984年度の調査地点でも池状の遺構が確認されており、相当規模の大きい池が存在したものと考えられる。埋土に近世後期の遺物が含まれているため、この池が埋没したのはその頃と考えられるが、立地から考えると人工的な池と考えられ、その構築時期は不明である。



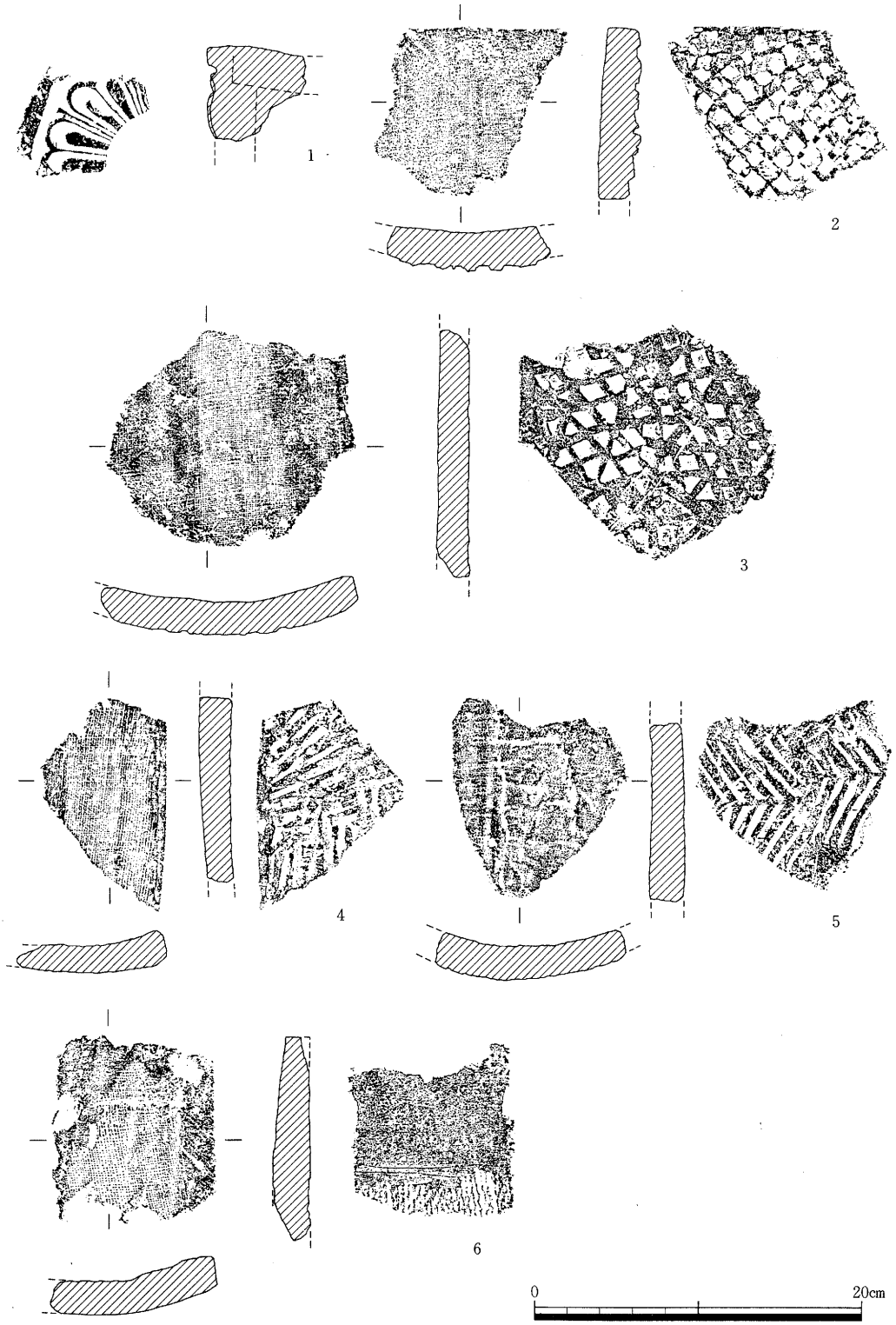
図－12　調査区位置図

遺物はコンテナに3箱分出土しており、安堂廃寺に伴うと考えられる屋瓦も淡褐色砂質土、暗青灰色シルトから出土している。1は複弁蓮華文軒丸瓦で、今回の調査で出土した軒瓦は1点のみである。1984年度調査で出土した軒丸瓦V類に対応し、複弁八葉蓮華文であろう。外区は平坦面をなす素文である。2～6は平瓦片。2は格子、3は斜格子、4は変則な綾杉、5は有軸綾杉、6は縄目の叩きをそれぞれ凸面に施す。凹面の模骨痕や側縁の調整状況から、いずれも桶巻作りと考えられるものである。5の凹面には2本の撚紐の痕跡がみられるが、その用途は確認できない。3・4の叩き目は、安堂廃寺では初見のものである。いずれも小片であり、近世遺物包含層から出土した2次的に移動したものである。

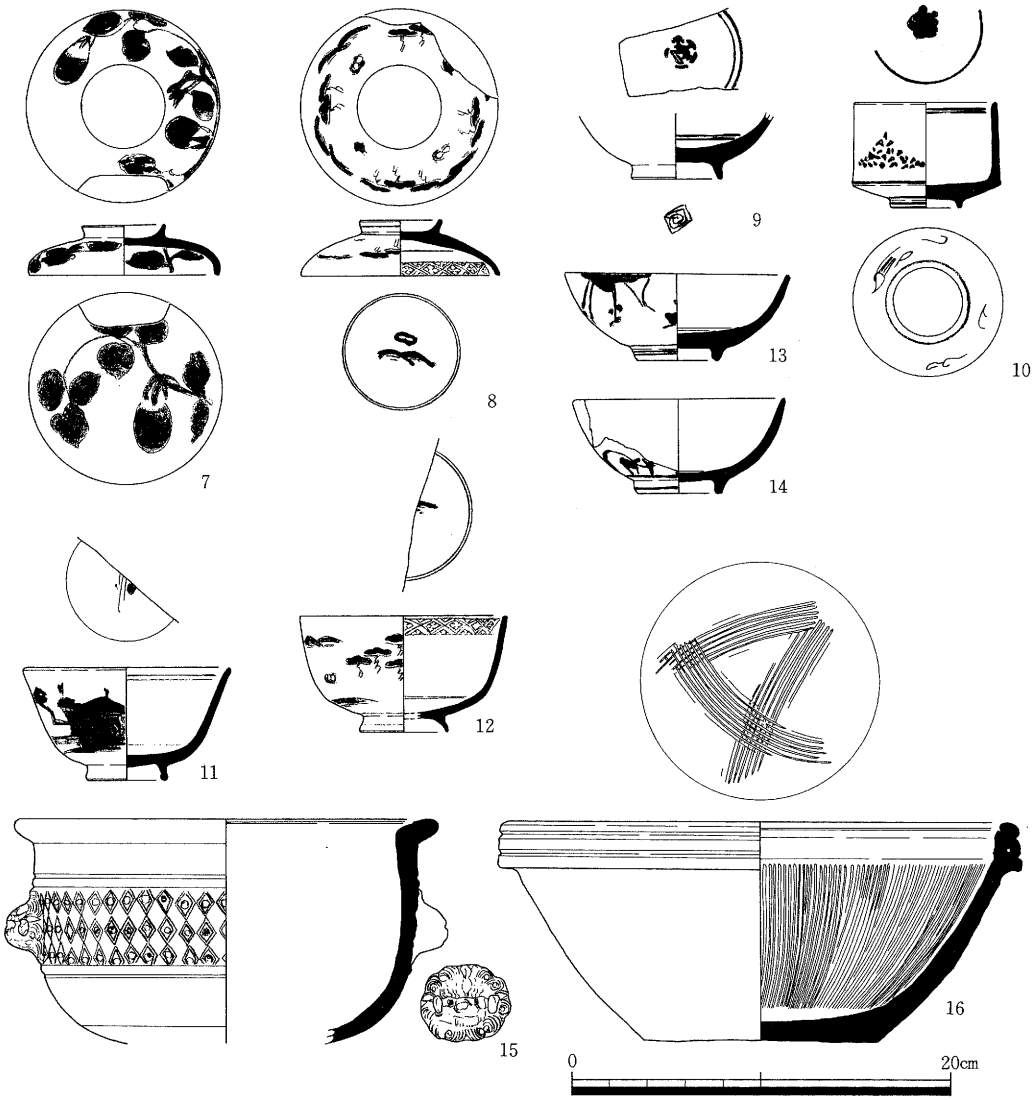


1．表土
2．淡褐色砂質土
3．暗青灰色シルト

図－13　土層摸式図



図－14　出土遺物



図－15　出土遺物

7～14は手描きによる染付で伊万里焼。7・8は碗の蓋。つまみ端部無釉。つまみ径4.2㎝、器高3.0㎝、口径10㎝前後。9は外面青緑釉。見込みに花卉文、高台内には2重方形枠に「福」の草書体染付。畳付無釉。10は口径7.3㎝、器高5.6㎝、底径2.6㎝。畳付無釉。11は口径8.8㎝、器高6.0㎝、底径4.1㎝。口縁部端反り。畳付無釉。12は8とセットになる。13・14は、くらわんか手。見込みを蛇ノ目状に釉剝ぎ。15は、瓦質香炉。菱形に三ツ巴の型押し。把手は獅子を表現している。口径21.6㎝。16は、備前焼擂鉢。体部外面に一部ヘラ削りを施す。擂目原体10条／2.5㎝。口径16.4㎝、器高11.8㎝、底径12.3㎝。全て江戸時代後期頃と思われる。

92－3次調査

・調査対象地　　柏原市安堂町668－9

・調査期間　　1992年11月16・17日

・調査面積　　3.7㎡／83.52㎡

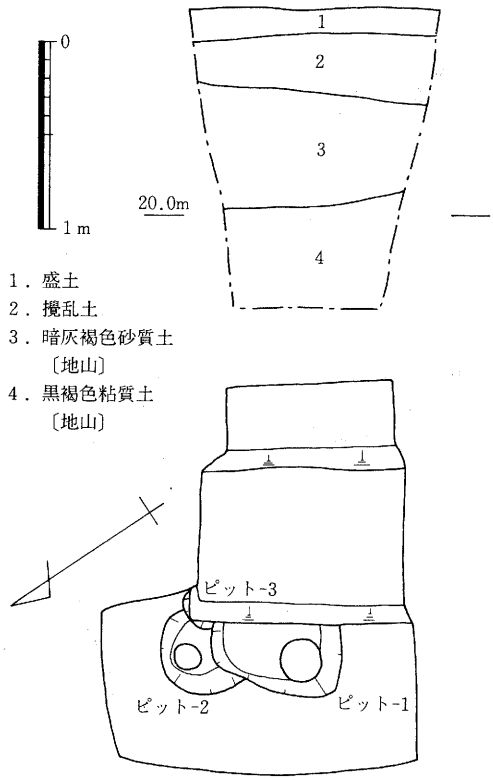
・調査担当者　　安村俊史

調査対象地の南西部、浄化槽予定地に1.5m四方のトレンチを設定し、調査を実施したところ、トレンチ西端で遺構が確認されたため、後に拡張したものである。

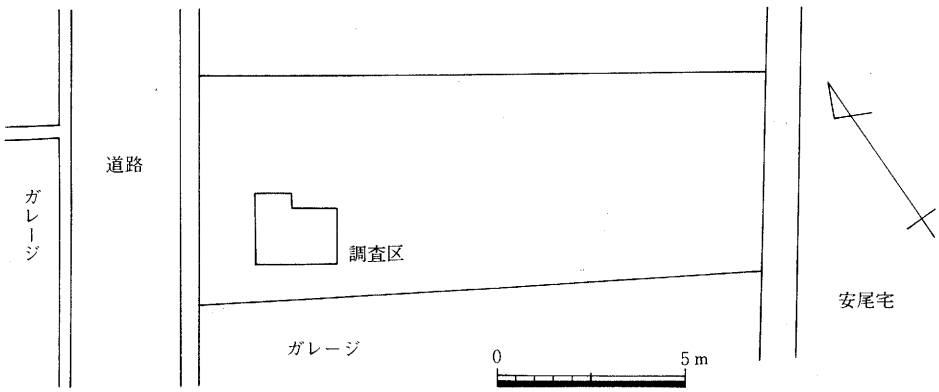
30～50㎝の厚さの盛土および撹乱土を除くと、暗灰褐色砂質土に至る。この面を精査したところ、トレンチ西端付近で部分的に黒褐色砂質土と暗灰褐色砂質土の混じった土がみられた。しかし、遺構としての輪郭が明確でなかったため、徐々に掘り下げていった。その過程で出土した遺物が図示したものである。

その後、暗灰褐色砂質土を更に掘り下げたが遺物は全く出土しておらず、その下層の黒褐色粘質土も同様に無遺物であることから、この両層は地山であると判断するに至った。

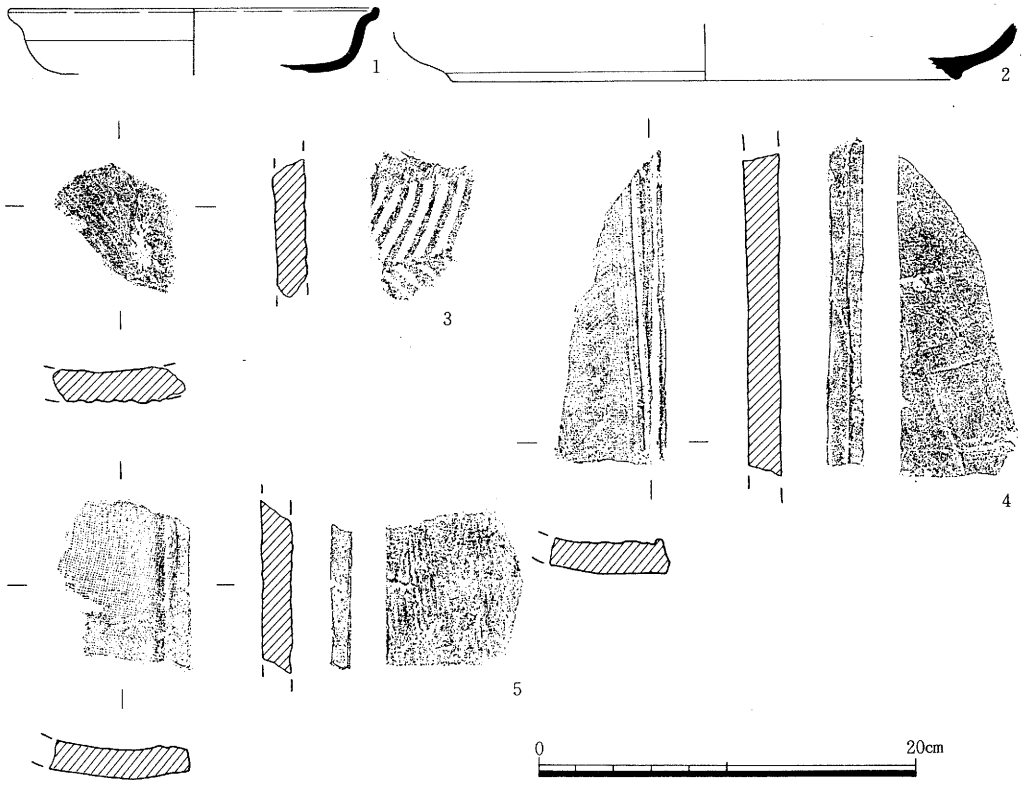
一方、前述の遺構らしき部分を断面で確認すると遺構であることが明確となり、トンレチを



図－16　遺構平面図・土層断面図



図－17　調査区位置図



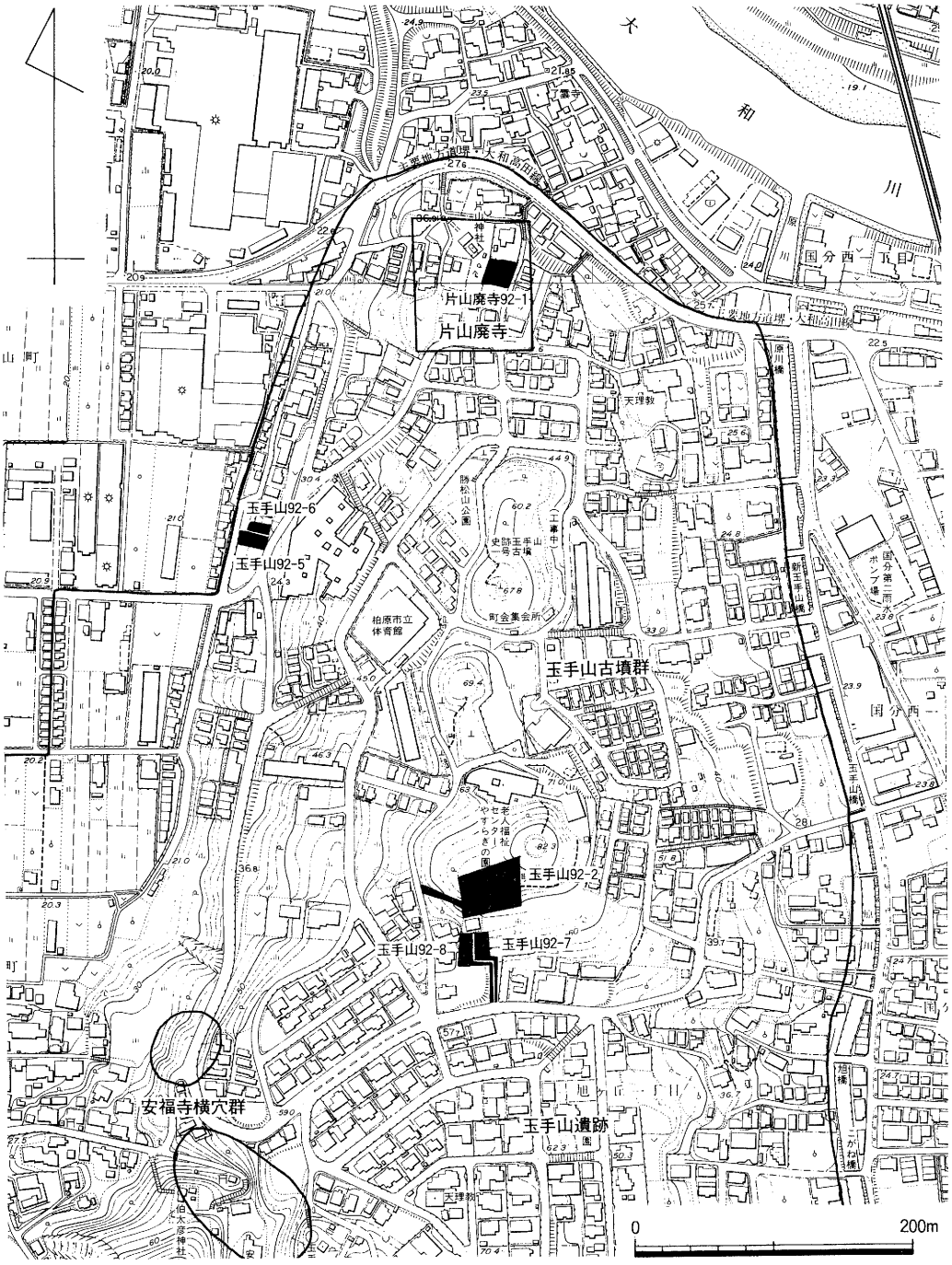
図－18　出土遺物

拡張し、再び暗灰褐色砂質土上面をより慎重に精査したところ、３個のピットが確認された。３個のピットは、ピット－２、３、１の順に掘られたものであり、図化した遺物はピット－１に伴うものかと考えられるが、ピット－１の堀方内から瓦器の細片が出土しており、図化した遺物は確認できなかった別のピットに伴う可能性も考えられる。ピット－２は直径40～50㎝の円形平面を呈し、柱跡は直径15㎝前後を測る。ピット－１は１辺70㎝を測る方形平面を呈し、柱跡の直径は22㎝を測る。

１は土師器の杯、２は土師器の皿で、いずれも奈良時代の遺物である。３～５は平瓦。３は凸面に有軸綾杉の叩きを有する。４は凸面の叩き目をすり消している。５は縄目叩きを施す。いずれも凹面や側縁の調整等から桶巻作りと考えられる。安堂廃寺に伴うものであろう。

建物基礎工事の際に立ち会ったが、基礎は盛土内におさまっており、地山には達していない。これまでの周辺の調査では、遺構面がかなり深いところで確認されていたが、今回の調査地周辺は非常に浅いようである。安堂廃寺、奈良時代から中世にかけての集落、更には知識寺南行宮の推定地にも近いことから、今後は慎重な調査が必要とされる地域である。

第４章　片山廃寺



図－19　調査対象位置図

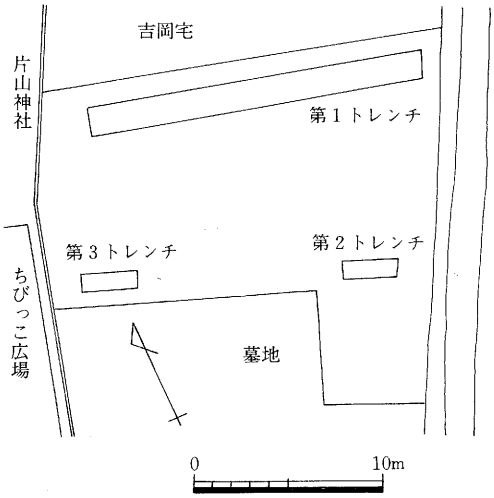
92－1次調査

・調査対象地　　柏原市片山町176－1・2

・調査期間　　1992年1月7日～14日

・調査面積　　33.0㎡／419.05㎡

・調査担当者　　安村俊史



図－20　調査区位置図

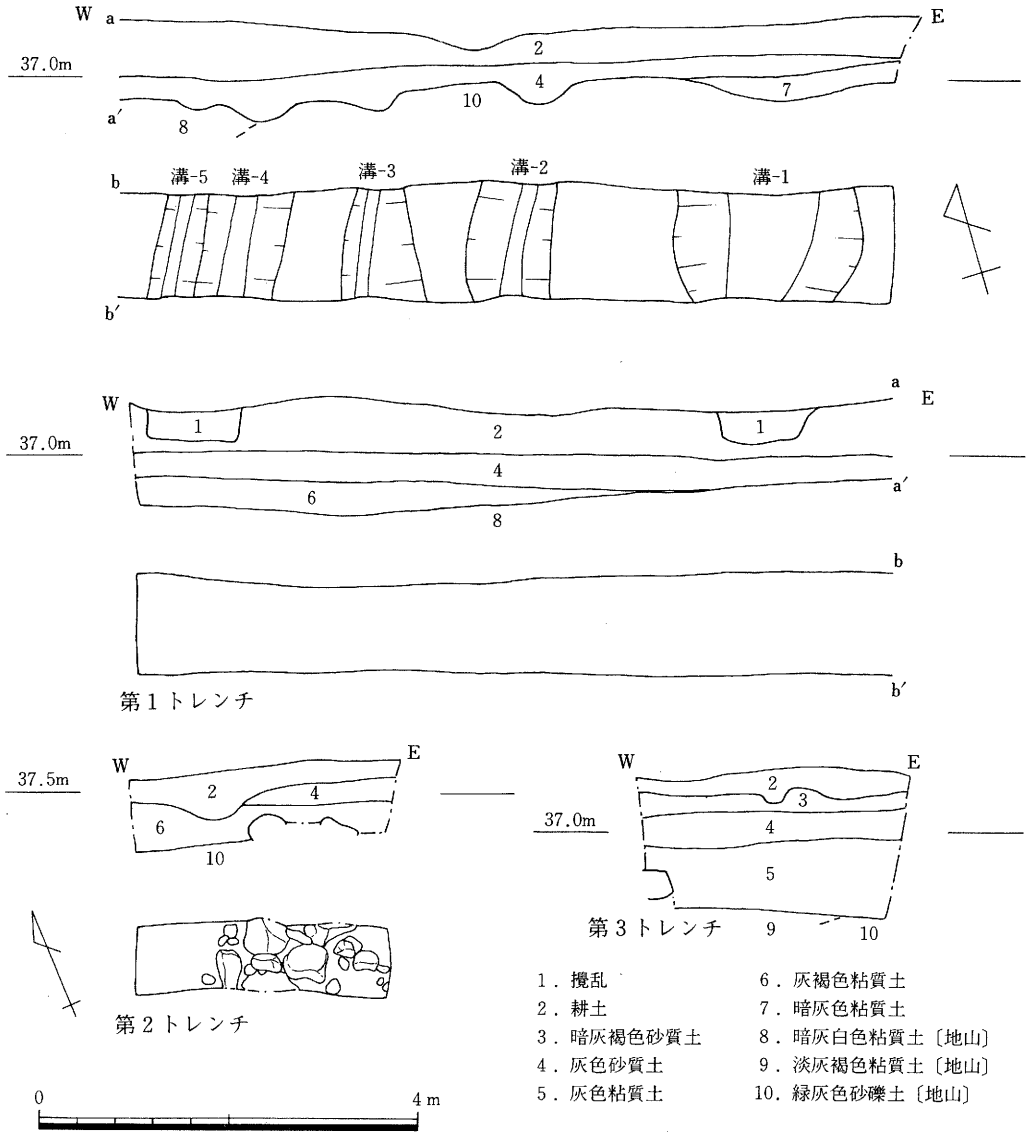
調査地は、片山廃寺塔跡の北東部に位置する。塔跡は1982年に発掘調査を実施しており、一辺11.87mの凝灰岩壇上積基壇を後に一部瓦積みに補修している状況が確認されている。（柏原市教育委員会『片山廃寺塔跡発掘調査概報』1983）

個人住宅建設に伴って、調査対象地の北・西・南の3辺にコンクリート擁壁を築く予定であったため、北辺に第1レンチ、南辺の2箇所に第2レンチと第3トレンチを設定し、調査を実施した。

第1トレンチは1.5m×17mを測り、トレンチを横断する形で5条の溝が確認された。土層は50㎝前後の厚さの耕土下に、中世の遺物包含層である灰色砂質土、その下に8世紀代の瓦を含む灰褐色粘質土・暗灰色粘質土がみられる。地山は，西半が暗灰白色粘質土、東半が緑灰色砂礫土で、前者が後者の上層に位置する。地山面の高さは西端で36.4m、東端で37.0mを測り、緩やかに西側へ傾斜している。

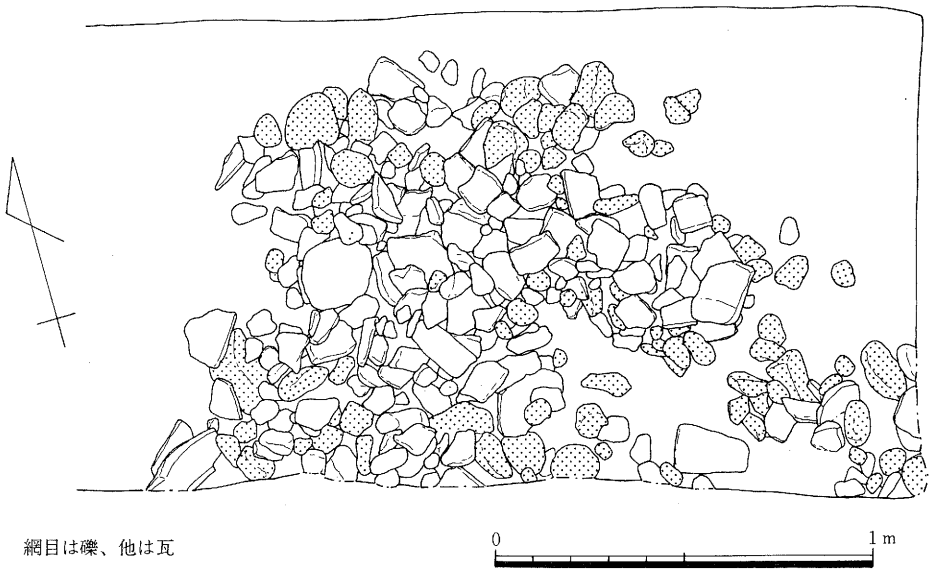
溝－1は、トレンチ東端近くに位置し、幅150～200㎝、深さ約20㎝である。埋土は灰色粘質土、溝内からその上面にかけては、多量の瓦・礫が集積した状態で出土している。瓦は完形のものがみられず、すべて破片である。また、7世紀代の瓦と8世紀代の瓦が混在した状態であり、礫は円礫が多く、大きさは5～20㎝である。出土状況から考えると、他所に存した瓦や礫を溝－1およびその周辺にまとめて放棄したのではないかと考えられる。土器は、須恵器杯身(2)、土師器甕の口縁(10)が出土している。

溝－2～5は、接するように並行している。溝－2は幅80㎝、深さ27㎝を測り、断面U字状を呈する。溝－3は北端で幅50㎝、南端で幅90㎝となり、南側で幅が広くなっている。深さは18㎝を測り、西側の壁面の傾斜は緩い。溝－4は幅90㎝、深さ20㎝を測り、断面は浅いU字状を呈する。溝－5は溝－4に接しており、幅50㎝、深さ10㎝を測る。溝－4と5は、一つの溝と考えたほうがいいかもしれない。溝－2～5は、いずれも灰色砂質土を埋土としており、鎌倉時代末頃の遺構と考えられる。底面の傾斜は、すべて南側が高く、北側が低くなっているので北流していたことがわかる。



図－21　遺構平面図・土層断面図

第２トレンチは、調査対象地の南東部に設定した１ｍ×３ｍのトレンチである。土層は耕土下に中世の遺物包含層である灰色砂質土、その下に８世紀代の遺物包含層である灰褐色粘質土がみられ、地山は緑灰色砂礫土である。地山までの深さは約80㎝、地山面の高さは37.2～37.3ｍで、第１トレンチ東端よりも約30㎝高くなっている。トレンチ中央から東端にかけての地山上面には、多数の花崗岩自然石が集積していた。自然石の大きさは５～50㎝であり、角礫・亜角礫が多い。人為的な集積と考えられるが、その意味するところは不明である。第２トレンチからは、瓦以外に須恵質のねり鉢(3)、瓦質の火舎(7)、土師質の羽釜(11)、滑石製石鍋(12)など中世の遺物が多く出土している。



図－22　第１トレンチ瓦・磯出土状況

第３トレンチは、調査対象地の南西部に位置し、１ｍ×３ｍの規模である。土層は、耕土下に暗灰褐色砂質土の盛土がみられ、その下に中世の遺物包含層が２層認められるが、時期差はほとんどないようである。８世紀代の遺物包含層は認められず、地山は西側が淡灰褐色粘質土、東側が緑灰色砂礫土である。地山までの深さは150㎝、地山面の高さは36.6ｍとなり、第１トレンチ西端よりもやや低くなっている。第３トレンチからは、瓦以外に瓦器椀(4・5)、土師器皿(9)など中世の遺物が出土している。

遺物は多量の瓦と塼、そして須恵器・瓦器・土師器・石製品などが出土している。

１は須恵器すり鉢の底部。２は須恵器杯身。高台を有する。口縁が斜上方へまっすぐのびる。口径18.6㎝、器高5.6㎝、底径13.6㎝。

３は須恵質のねり鉢。内面は回転ナデ調整後に斜めのナデを施す。口径28.9㎝。

４～６は瓦器椀。内面に粗いミガキを施し、外面体部に指頭痕を残す。

７は瓦質の火舎。内外面ともに著しく風化する。わずかに菊花文のスタンプを残す。

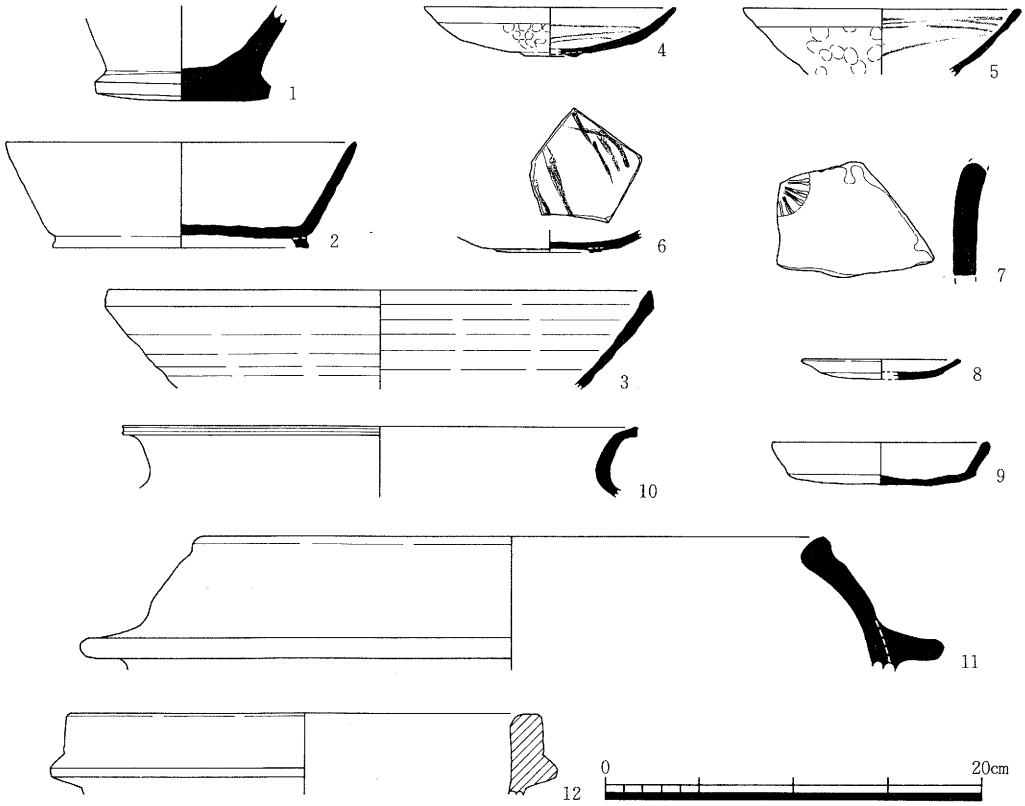
８は瓦器小皿。内面に粗いミガキを施す。口径8.1㎝。

９は土師器皿。口縁部は右廻りのヨコナデ、見込みにナデ、外面底部はやや粗いナデ調整を施す。口径11.2㎝、器高2.3㎝。

10は土師器甕。口縁端部に面をもち、凹状に仕上げる。口径27㎝。

11は土師質の羽釜。内傾する口縁部から端部は外方につまみ丸くおさめる。口径32.6㎝。

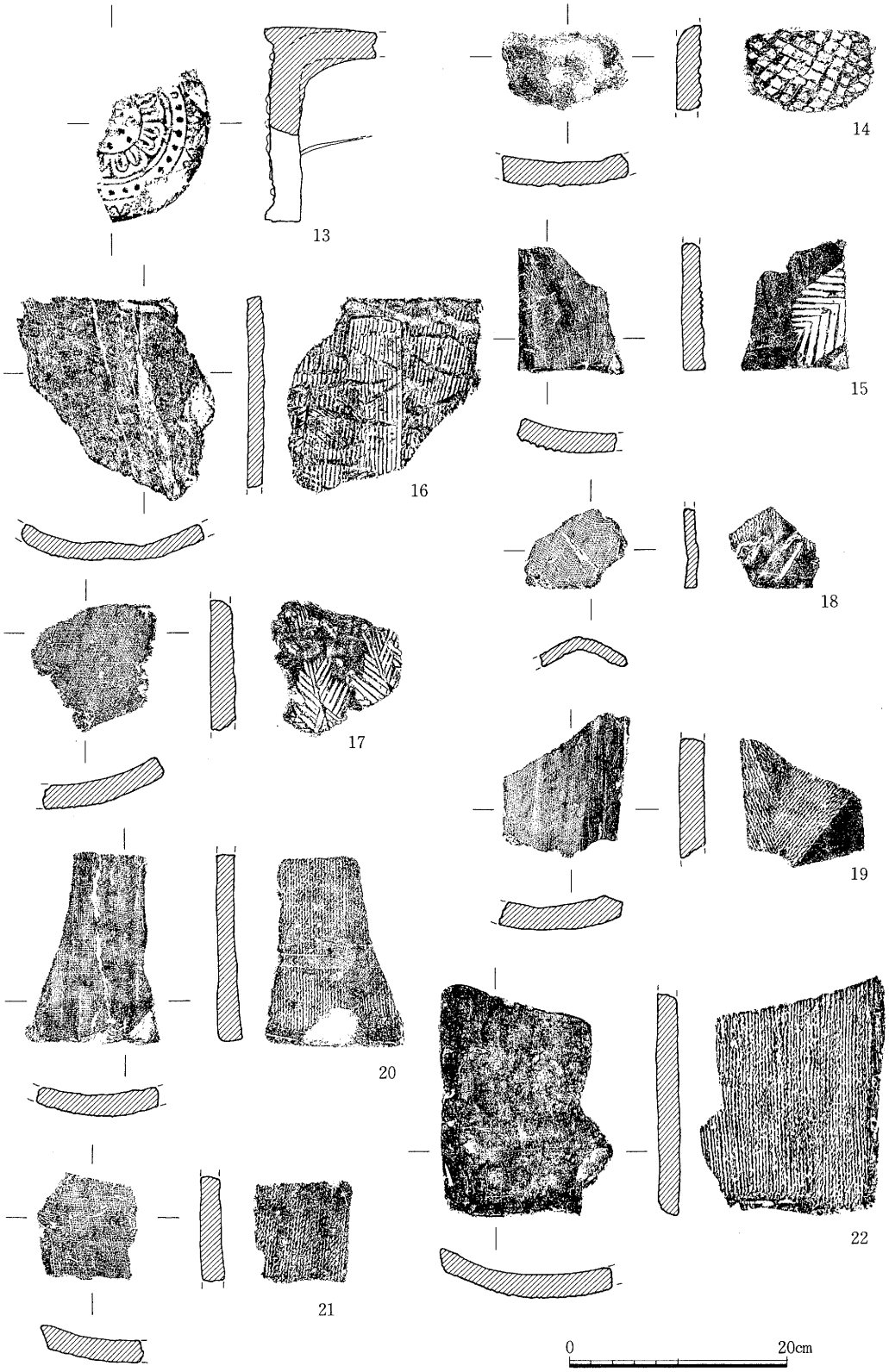
12は滑石製の石鍋。銀色の光沢を有する滑石を削り調整を施すことによって成形したものであり、短い鍔を有する。外面には媒が付着する。口径24.8㎝。



図－23　出土遺物

13は軒丸瓦。複弁八葉蓮華文軒丸瓦であり、過去に塔跡から出土しているものと同型式のものである。やや大きめの中房には１＋４＋８の蓮子を配し、各弁には高いがやや肉薄の子葉を伴う。外区内縁には珠文、内傾する外縁には凸線鋸歯文がめぐる。丸瓦部との接合は、丸瓦の広端部外面を削り、瓦当裏面に当て、その上下に粘土を補充したものと考えられる。接合部凸面側はタテ方向のヘラケズリ、凹面側はナデを施す。焼成はやや不良、灰色を呈する。藤原宮所用瓦と同笵であり、平城宮跡6281Ab型式に相当する。

14～22は平瓦。14は、やや斜め方向に1.0㎝×1.3㎝の格子目叩きを施したものであり、1982年度調査の平瓦Ⅰ類に含まれる。15は斜方向に無軸綾杉の叩きを施したものである。凸面に何らかの叩きを施した後にヘラケズリ、ナデを施し、原体幅6.2㎝の叩きを部分的に施している。凹面は布目が残るが、一部に糸切り痕がみられる。広端面ヘラケズリ、側縁は分割後にヘラケズリを施し、更に凸面側と凹面側の角を面取り状にヘラケズリする。1982年度平瓦Ⅳ類に対応する。16は幅0.3㎝前後の平行叩きを全面に施し、更に部分的に綾杉叩きを施したものである。平行叩き目に横・斜の直線が入るのが特徴である。凹面には幅4.1㎝の布の合わせ目と綴じ代の痕跡がみられ、この左右で布目の方向が異なる。1982年度平瓦Ⅴ類に対応する。17は幅0.3㎝前後の綾杉状の叩きを施したものである。平行線と斜線が複雑に重なった叩き目であり、原



図－24　出土瓦

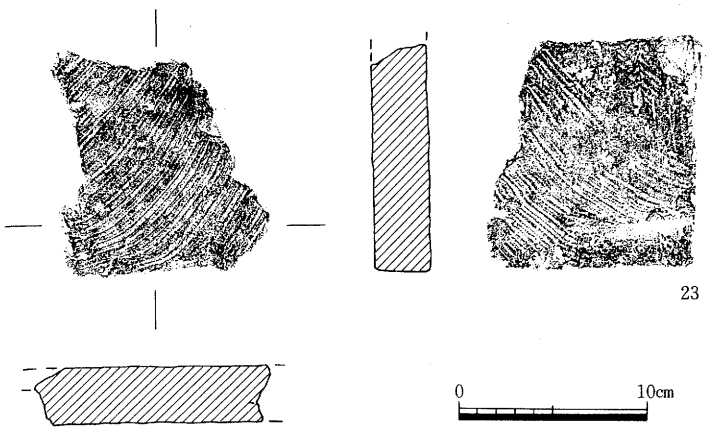
体幅は約6㎝である。1982年度平瓦Ⅶ類に対応する。18は4本／㎝の縄叩きを施したものであるが、焼き歪みによって、逆に反っている。側縁は2度のヘラケズリによって調整する。須恵質を呈し、厚さは1.0㎝と比較的薄い。塔跡瓦積基壇に使用されていた1982年度平瓦Ⅸ類に対応する。19は縄叩きを鋸歯状に施すものである。凸面にナデを施した後、鋸歯状に斜方向の4本／㎝の縄叩きを施しているが、ナデに先行して何らかの叩きが施されているものと考えられる。凹面は細かい布目が残り、幅2.0～2.5㎝の模骨痕がみられる。側縁は、大きく2度のヘラケズリが施されている。1982年度Ⅹ類に対応する。20は4本／㎝の縄叩きをタテ方向に施す。凹面には撚紐の痕跡がみられ、撚紐の左右で布目が通っており、撚紐の下にも布目がみられることから、分割界線としての撚紐痕と考えられる。撚紐は右撚りで、やや狐を描いている。模骨痕の幅は3.4㎝と5.3㎝である。1982年度平瓦Ⅺ類に対応する。21も4本／㎝の縄叩きをタテ方向に施したものであるが、凹面には模骨痕は認められず、側縁も鋭角をなしていることから一枚作りと考えられる。なお、凸面には数個の指頭痕が残っている。1982年度平瓦Ⅻ類に対応する。22もタテ方向に縄叩きを施すものであるが、3～4本／㎝とやや粗いものである。凹面は布目を板ナデによって消している。狭端面・側縁ともにヘラケズリによって仕上げる。1982年度ⅩⅢ類に対応する。21・22の平瓦を除いて、他の平瓦はすべて桶巻作りと考えられる。

今回出土した平瓦片の中で、叩き目の判明するもの222点について観察した結果、次のような結果となった。まず、格子叩きのⅠ類は1点(0.5%)のみ、無軸綾杉のⅣ類は13点(5.9%)、平行と綾杉並用のⅤ類は23点（10.4%)、縄目で桶巻作りのⅨ類・Ⅺ類は116点（52.3%)、縄目を鋸歯状に施したⅩ類は45点（20.3%)、縄目で一枚作りのⅫ・ⅩⅢ類は24点（10.8%）となる。これを第1トレンチと第2・3トレンチで比較してみると、第2・3トレンチでは、第1トレンチに対してⅣ類が3倍強、Ⅴ類が5倍強の比率となり、逆に縄目は約半分となる。また、1枚作りの平瓦も第3トレンチで1点出土しているのみである。また、第1トレンチ内においては、東半でⅣ・Ⅴ類が多く、西半で縄目瓦が多いという傾向がみられる。

次に、塔跡から出土した372点の平瓦と比較してみると、Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ類の比率はあまり差が認められないが、桶巻作りの縄目瓦は今回の調査地のほうが多く、一枚作りの縄目瓦は塔跡のほうが多いという傾向がみられる。

瓦以外には塼が出土している。23の塼は、他の塼と組み合わせるための突出部を有するものであるが、全形は把握できない。1982年度の調査では長方形と三角形の塼が出土しており、塔基壇上面の化粧に使用されたものと考えられる。また、その配置箇所を示したと考えられる文字をヘラ描きしたものもみられた。23には文字はみられないが、厚さが3㎝であり、色調・焼成・胎土等が一致することから、基壇化粧の塼と考えてよいであろう。両面に糸切り痕が明瞭に残り、端面はヘラケズリ、側面はヘラによる切りめを入れた後に切断し、切断面をナデで仕上げている。

以上が調査結果であるが、限られた面積、限られた遺物から大胆に推測すると、出土平瓦から第２・３トレンチ、塔跡、第１トレンチの順に新しい要素がみられる。この事実から、第３トレンチの西方に最初に建てられた金堂が存在し、第１レンチの西方に最後に建てられた講堂が存在したのではないだろうか。金堂・塔・講堂は、それほど時期を経ずに建てられたと考えられ、塔は８世紀代に大規模に改修されたものと考えられる。



図－25　出土塼

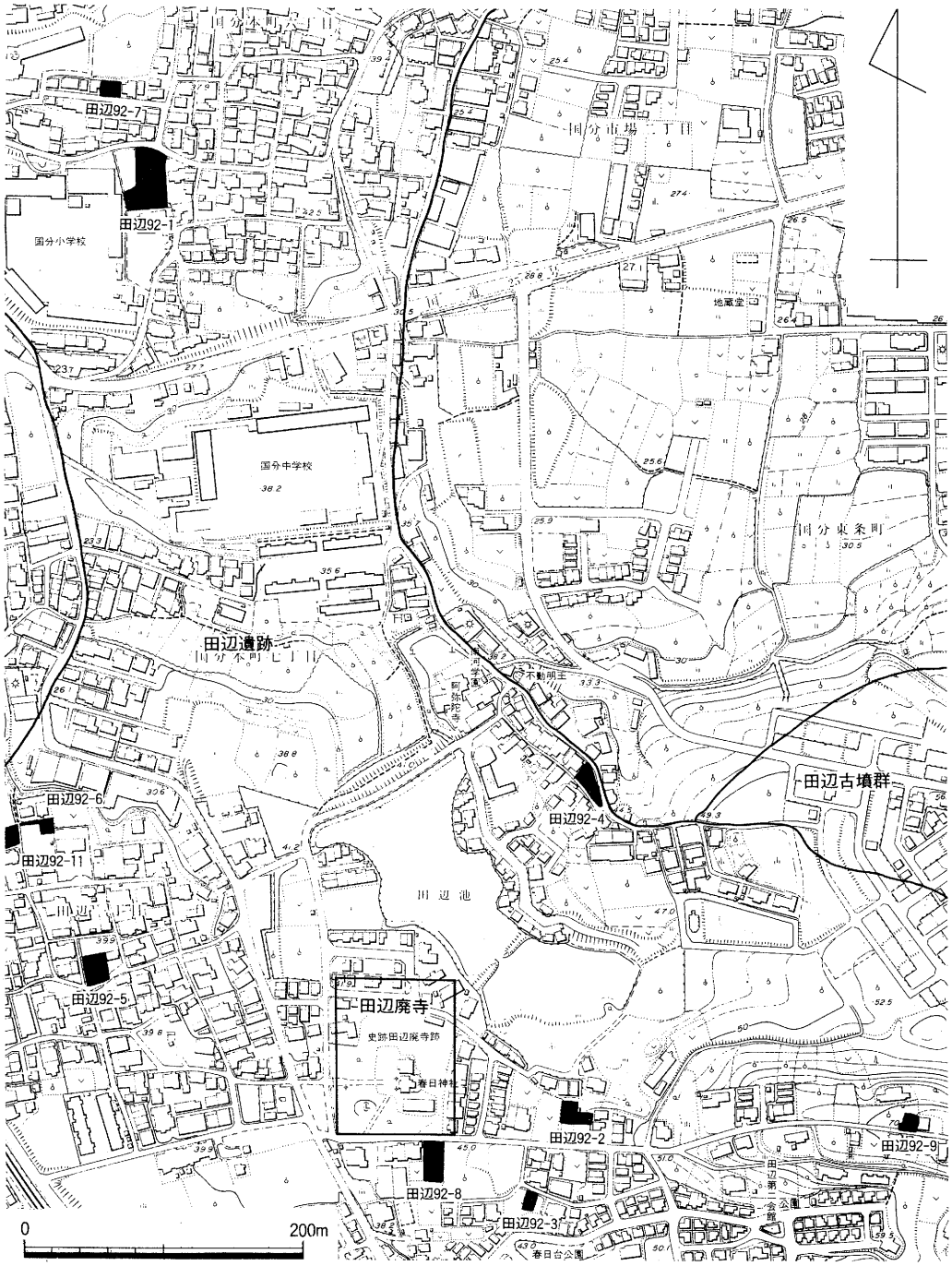
調査前は、塔基壇が磁北から22°も東に振っていることから、塔の背後に金堂・講堂が位置するならば調査地内に存在すると考えられ、基壇発見の可能性も考えていた。しかし、基壇の痕跡は全く確認できなかった。中世に若干の削平を受けているようであり、基壇が完全に削平されている可能性も考えられるが、調査地の西方に金堂・講堂が存在したと考えるほうが妥当であろう。

また、溝－１は寺域東限の溝としての可能性が考えられるが、第２トレンチでその延長が確認できなかったため、これは今後の課題としておきたいと思う。

以上のように、片山廃寺の伽藍配置は、1982年度の塔跡の調査で予想したように、薬師寺式もしくは大宮大寺式となる可能性が強くなった。良好に遺存している塔跡に対して、その位置さえ不明な金堂・講堂を考える際の新しい資料を呈示できたと考えている。

工事による影響深度は、中世の遺物包含層に達するのみであるため、工事に際して立ち会うこととし、調査範囲の拡張は行わなかった。その後、工事に際する立ち会いでは、遺物の出土はみなかった。

第５章　田辺遺跡



図－26　調査対象地位置図

92－7次調査

・調査対象地　柏原市国分本町6丁目678－1

・調査期間　1992年8月31日

・調査面積　11.6㎡／171.03㎡

・調査担当者　安村俊史

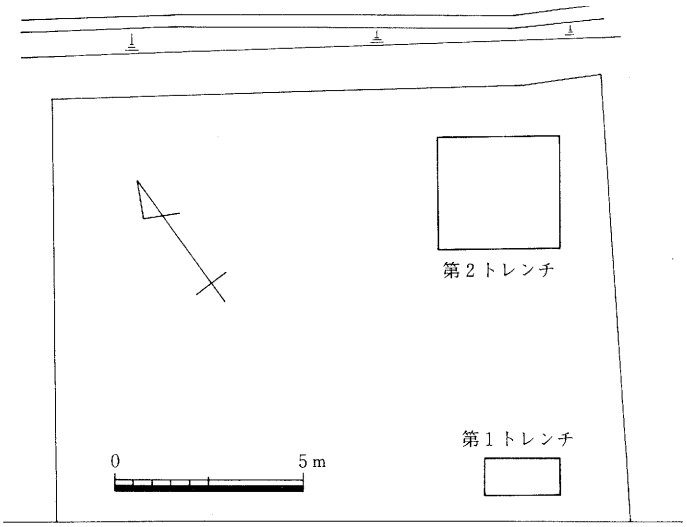
調査対象地の南東部に第1トレンチ、北東部に第2トレンチを設定し、調査を実施した。

第1トレンチは1m×2mの規模を測り、地表下10～70㎝で暗黄褐色粘質土と灰白色細砂の互層よりなる地山を検出した。地山に至るまでは、すべて盛土である。地山は西側へ傾斜し、遺物・遺構は認められなかった。

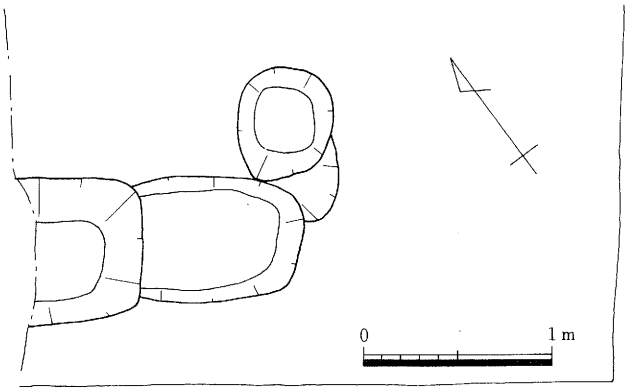
第2トレンチは1.5m×2mの規模で設定したが、遺構が検出されたため、3m×3.2mに拡張した。地山は、地表下50㎝までで検出される黄灰色シルトである。第2トレンチの南西部で切り合う4個のピットを検出した。

各ピットは、平面で50～100㎝の規模を有し、円形もしくは方形平面を呈する。深さは、最も深い北東部のピットで70㎝を測る。各ピットは、切り合っており、複数の時期の遺構であることが確認できるが、遺物が全く出土していないため、その時期は不明である。

地山は北東部から南西部へと傾斜しており、第2トレンチ以外の部分では建物の基礎による影響が考えられないため、全面調査は実施していない。



図－27　調査区位置図



図－28　遺構平面図

図　　版

図版一　大県南92－6・92－7

92－6区（東南から）

92－7区（西から）

図版二　太平寺92－1

第1トレンチ（西から）

第2トレンチ（西から）

図版三　安堂廃寺92－1

トレンチ（東から）

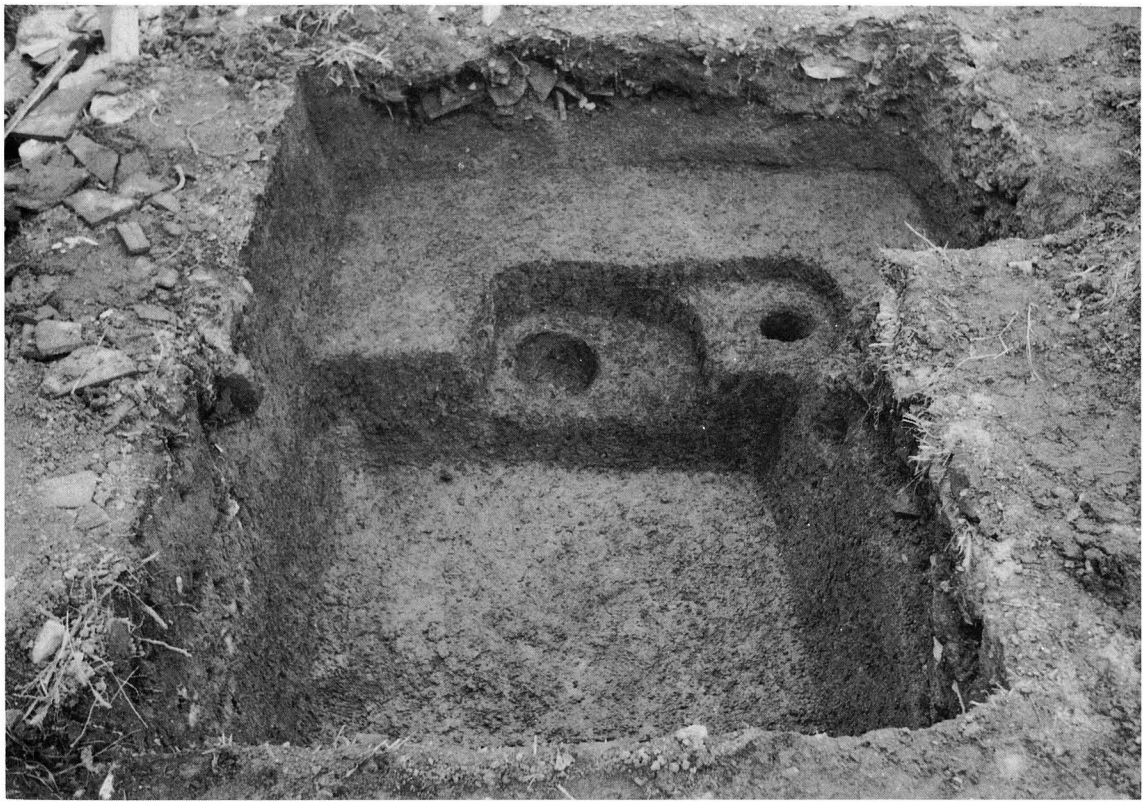
北壁断面（南から）

図版四　安堂廃寺92－2

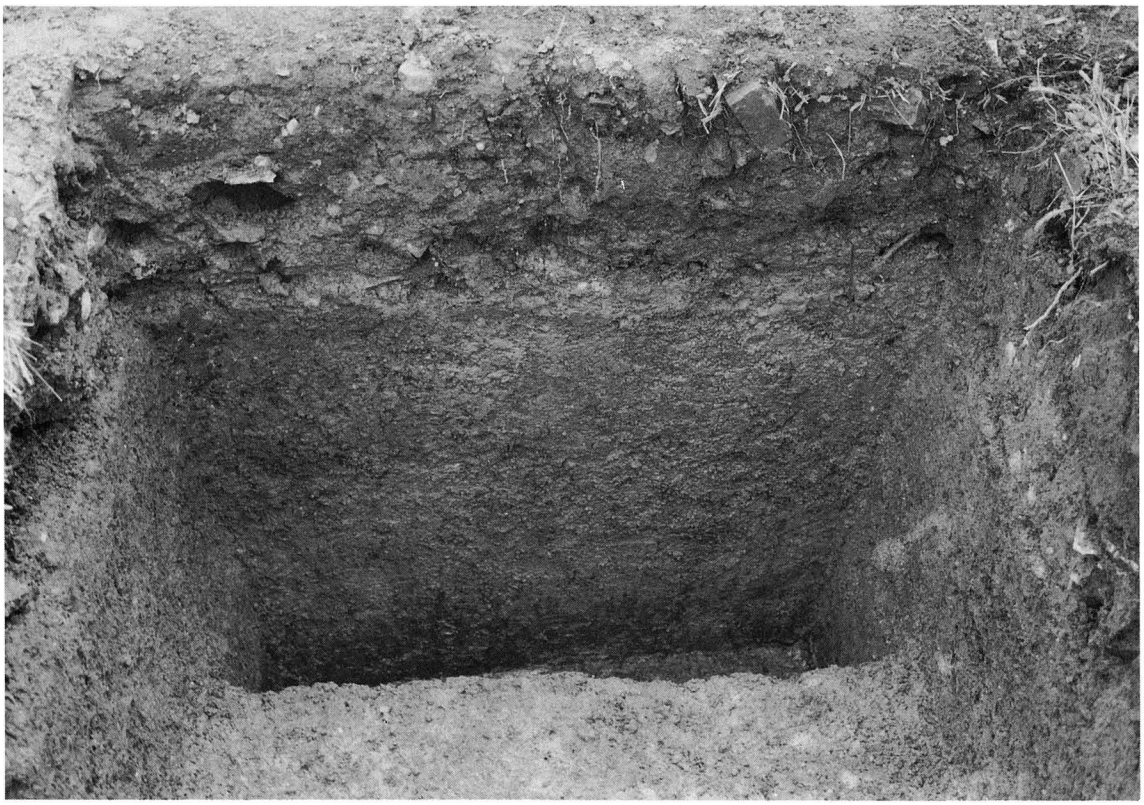
トレンチ（東から）

トレンチ（北から）

図版五　安堂廃寺92－3



トレンチ（東から）



東壁断面（西から）

第1トレンチ（東から）

第1トレンチ瓦・礫出土状況（西から）

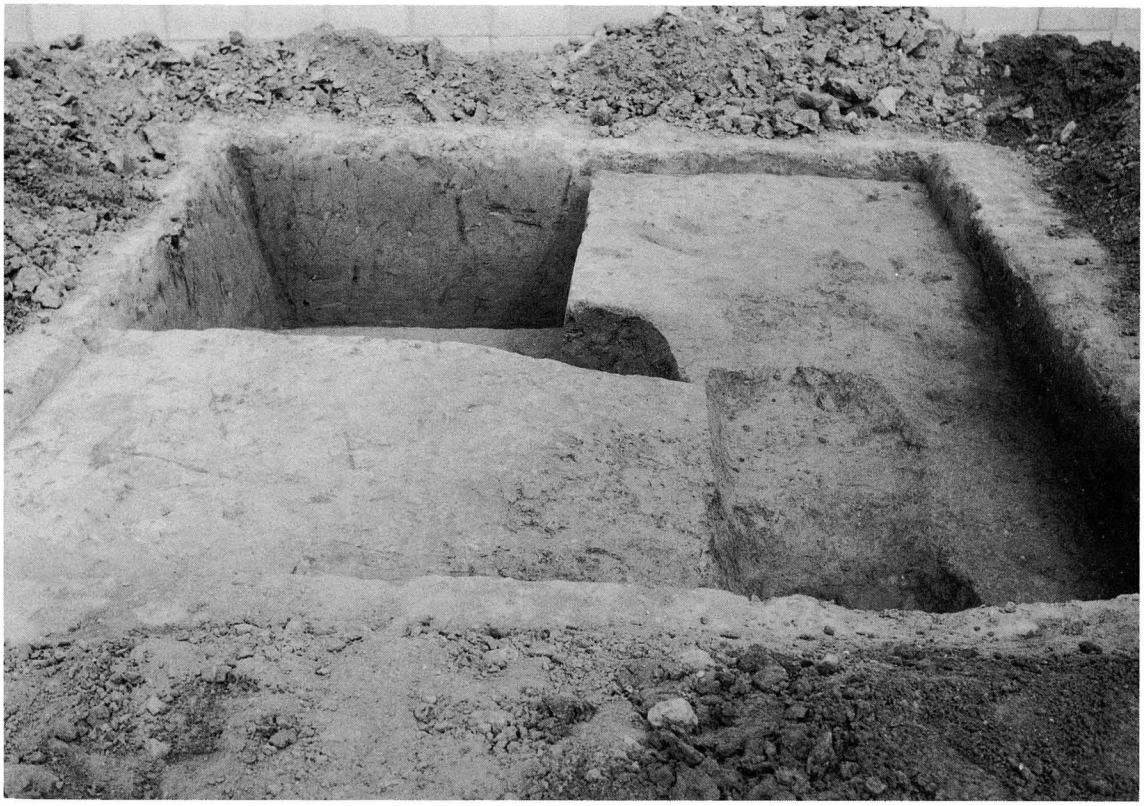
図版七　片山廃寺92－1

第2トレンチ（西から）

第2トレンチ（東から）

第3トレンチ（西から）

第3トレンチ南壁（北から）



第２トレンチ（西から）

第２トレンチ遺構（南から）

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1992年度

編集・発行　柏原市教育委員会

〒582大阪府柏原市安堂町1番43号

電話（0729）72－1501　内線5133

発行年月日　平成5年3月31日

印　　刷　株式会社　中島弘文堂印刷所